

会議概要書

会議の名称	第2回 通学等検討委員会
日 時	令和3年12月2日（木）午後6時～7時10分
会 場	市役所 東大会議室
出席者	市教委：荒井教育長、竹内次長、三原課長、一本木課長補佐、松倉課長補佐、渡辺主任、（中山職務代理者、仲原教育委員、下川教育委員）9名 委員：8名、（準備委員会委員長）1名
次 第	1 開 会 2 あいさつ 3 新中学校名候補の応募状況について 4 会議事項 （1）通学方法について （2）通学路の安全対策について 5 そ の 他 6 閉 会
主な意見等	<p>【通学方法に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自転車230台は、駐輪できるのか ⇒ 現状では140台程度で試算。 ・ 国道など自転車通学が増えて大丈夫か ⇒ 国道148号は現在も歩道整備しているが、幅の狭い部分もあり、心配な要素ではある。国道に限らず裏道なども同じ。通学路の安全対策の中で検討が必要と考える。 ⇒ 今の自転車通学のための基準を当てはめて試算した人数ですので、非常に多くなっているが、登下校の安全面で考えたときに、自転車の事故など心配される。そういった点からバスや電車の範囲について、現行5kmを3～4kmにするなども方法の一つと考える。 ・ スクールバスの本数などのご意見があれば伺いたい。 ・ 木崎のあたりは、自転車通学か ⇒ 現一中の基準で夏場は自転車、冬場はふれあいバスとなっている。 ・ 仁中になれば、木崎駅の利用もよいのではないか。 ・ 北大町、木崎駅周辺の生徒は利用できて良いし、バスまたは自転車を利用したい生徒は選択できるようにするのはいかがか。 ・ バスの時間帯があわない、バスのルートで長時間となるなどの課題に対し、本数を増やすのも一つの方法。 ・ 一中のバスの到着時間は ⇒ 8時少し前。8時10分から活動が始まる。 ・ バスと自転車と選べるのはよい。子どもにも聞いてみたが、バスがよい子どももいれば、自転車がよい子どももいた。 ・ 同じ地区で通学方法が異なることについて、学校としてはどうでしょうか ⇒ 保護者も生徒も安心安全が第一で、選択できるのはよい

と思う。学校としては、同地区で通学方法が異なることで事務が煩雑になる部分はある。

- ・スクールバスの路線を増やすことは ⇒ 委託事業者にも依りますが対応は可能。安全確保や乗車時間からも路線確保も一つの方法。
- ・昔は小学生でも3km位歩いたが、時代も変わり交通量も増えているので安全を第一に考える。平地区のように広がった地域では、小さいバスで、複数路線でよいのではないか。
- ・通学時間は50分程度である方がよい ⇒ 時間も文科省から目安が示されている。どんなに遠くても1時間以内としていきたい。
- ・選択できる範囲で日によって、通学方法を変えることはしない。
- ・常盤の泉の子どもは、南小まで4km以上歩いて通っているが、中学になると自転車になる。
- ・子どもが歩きたがらない理由に、一緒に通う子どもがいないこともある。
- ・安全面からも一人で通うよりは複数名の方がよい。
- ・バスに乗れない場合は、保護者が送ることもある。
- ・木崎周辺の生徒は、冬場ふれあい号で遠回りのルートとなるよりは、JRで木崎駅を使った方が、大町駅から学校までは近い。

◎徒歩と自転車の境は、直線1.5kmで実測2kmとし、それを超える範囲の自転車、バス、電車の5kmの中で線引きや選択できる範囲、それから通学時間も考慮し、全体の通学手段について、改めて事務局案を作成する。

【通学路の安全対策に関すること】

- ・泉柿の木の信号ですが現在はあるが、通学路の安全対策で信号設置を要望してきた、信号1つ設置するのもかなり大変。子どもたちが安心して通学できるようにお願いしたい。
- ・これまでは、PTAなど個々の陳情で終わっていたが、資料にもあるとおり、H26に設置した安全協議会は、道路管理者や警察など関係者が一堂に会して危険個所を点検し、情報共有しながら対策を講じるようになった。
- ・仁中のバスの停車場所は ⇒ 市役所の駐車場前
- ・社のバスは、乗降について、道路を横断しないようにしている。乗降や待っている場所が安全であるのが大事。